

医療法人社団 札幌道都病院様

患者様や医療スタッフの居場所を「探す」から「見える化」し 業務効率と安全性の向上を実現

入院病棟では患者様やスタッフを探すことが日常でしたが、ナースステーションに設置した位置情報モニターで、居場所確認が容易になり、想像していた以上にスタッフの業務効率化が実現できました。

お客様プロフィール



所在地：
北海道札幌市東区北17条東14丁目3番2号

開院：
1987年11月

医療スタッフ
230名（医師、看護師、介護士、理学療法士、
作業療法士、薬剤師、臨床工学技士等）

入院病床数：
188床

診療科目：
内科、外科、形成外科、消化器内科、
消化器外科、循環器内科、呼吸器内科、
肛門外科、リハビリテーション科、放射線科、



「地域に根ざした医療」を理念に 高齢化に対応し充実した医療を提供

急激な高齢化が進む札幌市東区の急性期医療を担う札幌道都病院様。近隣の療養型病院や老人福祉施設などからの患者様受入も多く、介護を必要とする患者様は6~7割を占めます。この状況に対応するため、医師や医療スタッフの充実とともに、電子カルテや入院患者管理システムなど、最新のITシステムを積極的に導入し、ベッドサイド型のケアを導入するなど、高い医療水準とスタッフの業務効率向上の両立を実現しています。



お困りごと

- ✓ 処置時に病室を訪問しても患者様がない
- ✓ 先生からの重要な指示は直接会って伝えたいけど、担当看護師が近くにいない
- ✓ 夜勤はスタッフの人数が限られているので不安

解決

- 病室に患者様の在室状況がわかり訪問・回診が効率的になった
- 担当看護師の居場所が分かり、状況に応じて適切なタイミングで連絡できる
- 夜勤でも看護師・介護スタッフ等の居場所が分かり応援を求められるので安心

看護師の業務改善にこんなに貢献 するとは想像していませんでした。 導入後には「**なくなると困る**」と スタッフが言ってくれるのは嬉しい。



医療法人社団 札幌道都病院
理事・副院長
医学博士
矢嶋知己様

背景と課題

患者様の高齢化に対応し、業務スタイルを変えたことで、
スタッフの所在確認が大変に

患者様の高齢化に伴い、当院では様々な取り組みをしてきました。患者様の負担が少ないベッドサイドでの治療や検査を増やしたのもその1つです。その結果、患者様の負担を減らすことは実現できましたが、代わりに、看護師は各病室にいる時間が長くなり、担当看護師に直接連絡をする際には病棟内を探し回るということが増えてしまいました。

また、6割超の患者様が要介護者という当院では、認知症による徘徊などのリスクもあり、高齢患者様の安全性の確保という点から、患者様の位置把握の必要性も感じていました。

導入の効果

業務の効率化だけでなく、スタッフの負担軽減や、
職場の魅力向上にも効果が

導入後、「患者様やスタッフを探す」ということは無くなり、スタッフからも「探し回らなくて楽になった」という声が聞かれるようになりました。また、患者様の所在確認もすぐに出来るので、安全性も高まりました。導入前に、スタッフからは、「探すのが大変」という声は聞こえてきていなかったのですが、大幅に負荷が減った結果、今では位置情報が「なくなると困る!!」という声が顕在化してきたようです。

対外的にも効果があり、当院に入職を希望する方たちに開いている病院見学会の後、殆どの方がぜひ当院で働きたいとおっしゃり、実際にエントリーしてきます。すべての人を受け入れることは当然できませんが、そういう方の数が増えたことはとても嬉しいことだと思います。

今後の展望

外来への導入をすすめ、
動線分析を行って更なる業務効率化を

導入して1年余経ち、予想していた以上の効果が得られたので、位置情報サービスの外来への導入を検討し始めました。今後は外来、そして、入院患者様やスタッフなどの動線分析などを行い、より業務を効率化し、患者様にとっても、スタッフにとってもよい病院にしていく活動をしていきたいと考えています。



天井に設置されたRFIDアンテナ



ナースステーションの位置表示モニター



スタッフ用のRFIDタグ
IDカードの裏についている



患者様用のRFIDタグ
腕にバンドでとめている

現場スタッフの声

足の疲れが話題にならなくなりました
看護師長 畑山聡子様(写真左)

先生に指示を仰ぐ際や、逆に先生からの指示・連絡事項を担当の看護師に伝えるために、安全管理上、直接話をする必要があります。導入前は、それこそスタッフを探すのに「探し回る」ということが日常でした。しかし、システムが入ってからは、ナースステーションのモニターを確認すれば所在がわかるので、探し回ることがなくなり、歩く距離も格段に減りました。以前は1日が終わると、看護師同士で足の疲れを話題にしていたのですが、最近では全く話題にならなくなり、業務負担の軽減を実感しています。

夜勤時の安心感が高まりました
看護師 丹羽まりえ様(写真右)

人数の減る夜勤時に、同僚がどの病室にいるのかすぐに把握できるようになったのが一番実感できることでしょうか。ナースコールやセンサーコール(ベッドについているセンサー。患者がベッドを離れると呼び出しがかかる)に誰が対応しているのか、していないのかがわかるので、安心できるようになりました。今では、行動前にモニターを見るのが癖になりました。日勤でも5、6回は確実に見えていますね。なによりも「探す手間」がなくなり、移動量が減ったので、体力的にも精神的にもだいぶ楽になったと思います。



RICOH
imagine. change.

株式会社リコー
東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222

<http://www.ricoh.co.jp/sensing/>

■リコーにご提供いただいたお客様の個人情報の取り扱い方針については、当社ホームページでご確認いただけます。

● お問い合わせ・ご用命は…